

マンサクの花咲く

詞 奥田 祐子 曲 小田 由美

わすれゆきがふ っ ては - きえる いろのないや ますそに -
 ひとつ - また ひとつ - はな やかではない りんとしたえだ -
 ち から み な ぎ る き いろ い は な 開
 く - Uh -
 まず さ く ま ん ず さ く - マンサクのはな -
 い ち ば ん は や く は る - を よ ぶ -
 まず さ く ま ん ず さ く - マンサクのはな -
 ど れ ば ど ふ ゆ が な が く て も は る は - く る か ら は る
 は く る か ら と つ げ て い る - -

1 忘れ雪が降っては消える 色のない山すそに
 ひとつ またひとつ
 華やかではない りんとした枝
 カみなぎる 黄色い花開く Uh
 まず咲く まんずさく マンサクの花
 一番早く 春を呼ぶ
 まず咲く まんずさく マンサクの花
 どれほど 冬が長くても 春は来るから
 春は来るからと 告げている

2 今年もまた変わることなく ふるさとの山すそに
 ひとつ またひとつ
 目立つことない りんとした枝
 カ合わせた 黄色い花開く Uh
 みな咲く みんな咲く マンサクの花
 稲穂の実り 願う花
 みな咲く みんな咲く マンサクの花
 どれほど 冬が深くても 実る日は来る
 実る日は来ると 告げている